

日刊 THE NIKKAN 工業 KOGYO SHIMBUN 新聞

4月18日 木曜日

2019年(平成31年)

ガードロック(大阪府豊中市、南完治社長、06・6152・1830)は、独自の錠前(ロック)製品を次々と生み出す専業メーカー。ドアノブにかぶせれば施錠できたり、締め込んでボタンを押せば空回りし外せなくしたりする、後付けのロックを得意としている。

開発するのは創業者の南社長。高価でも便利なロックを取り扱う商社や小売り店などから直接、消費者や企業などのニーズを聞き出す。

2017年に発売した「まわすto(と)ろつく」は、鉄製ロッカーに簡単に取り付けられるダイヤル式ロック。数字4ケタの暗証番号で解錠できる。偶数(0、2、4、6、8)の番号を「*」で表

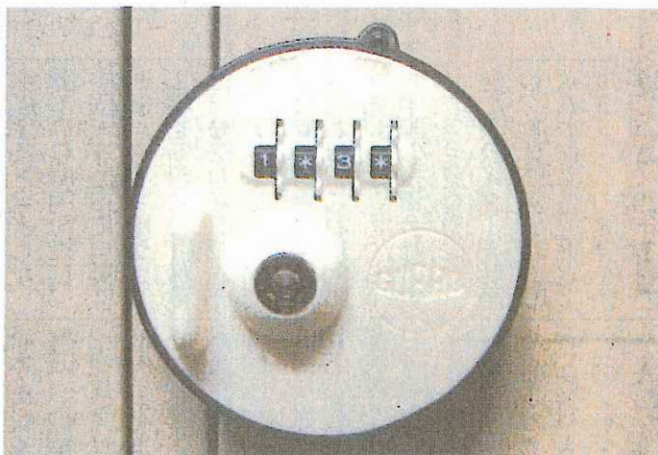


ニーズつかみアイデア勝負

ガードロック

独創的なロック製品

⑦6



偶数を「*」で表記し、読み取られにくくした「まわすto(と)ろつく」

▲「ンドル」も発売した。故意やミスによるバルブの不正な開閉を防げる。18年にはゲート(仕切り)バルブ用の同ハンドルも製品に加えた。

南社長は「ロックのメーカーは多いが、本当に必要な機能は少ないと感じる利用者は多い」と説く。利用者の目線に立ったロックづくりにとことんこだわるのが、ガードロック流のモノづくり。そんな価値観を認める卸先が、大手メーカー製より有利な価格で引き取り、販売してくれるという。業務用はウェブサイトでも直販もする。

「キーをポケットから出したり入れたりすると、ポケットの中のほこりが飛散してしまふ。衛生管理に厳格な食品工場から、キーのいらない開発を要望された(南社長)。

安全・安心意識の高まりをとらえ自ら水道局などに提案し、製品化できたものもある。17年には、ボール(球状)バルブをキーで開閉できる「取替式ロック付バルブハ

「大手並みに扱ってくれる」ということは、卸先も当社の製品で利益を上げている、ということ。一番よいものをつくる「オンリーワン」になりたい」と意気込んでいる。

(大阪・田井茂)